

富良野市まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略効果の検証

平成30年10月24日

富良野市総合戦略有識者会議

総合戦略の策定の経過

- ① 少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるために、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえることと、地方への人の流れや「しごと」をつくるために、「まち・ひと・しごと創生法」が平成26年11月に成立しました。
- ② この法律では、全国の市町村が人口減少対策として「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することが努力義務とされました。
- ③ 富良野市では、人口減少や少子高齢化が急速に進むなか、本市が次世代へ向けてさらなる発展を遂げ、住み続けたいまち、そして、子どもたちに誇れるまちをめざして、今後5年間の基本戦略や個別戦略、主な施策や具体的な事業について示した「富良野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成28年3月に策定しました。

総合戦略有識者会議の目的

- ① 総合戦略の推進にあたっては、計画(Plan)、実施(Do)、評価(Check)、改善(Action)のPDCAサイクルを構築するため、毎年、市は総合戦略有識者会議に対し事業の実績を報告します。
- ② 総合戦略有識者会議では、実績に対する効果の検証を行います。
- ③ 総合戦略有識者会議では、効果の検証により、施策や事業の効果が期待できないと判断される場合、施策や事業の見直しや変更について市に提案します。

富良野市総合戦略有識者会議

- メンバー：産業界
行政機関
教育機関
金融機関
労働団体
市民団体
一般公募
- ミッション：総合戦略の立案
効果の検証

毎年
実績報告

実績に対する
効果の検証

富良野市各部局

総務部
市民生活部
保健福祉部
経済部
建設水道部
教育委員会

人口減少対策に関するこれまでの取り組み



コンシェルジュ フラノ



まちのにぎわいを点から線へ、線から面へと拡大させる中心市街地の核拠点施設「コンシェルジュ フラノ」

富良野市企業誘致推進連絡会議

平成30年2月21日に設立

設立の目的

本市の産業振興、雇用創出、定住促進に寄与するため、行政、商工団体、農業団体、金融機関が連携・協力体制を確立し、本市の恵まれた地域資源やブランド力の優位性を活かし、国内外の企業の本市への誘致を推進すると共に既存企業との取引や交流促進など共存・共栄を図ることを目的とする。

所掌事項

- 企業誘致に関する情報提供及び意見交換
- 企業誘致に関する調査、研究及び情報収集
- 国内外の企業に対する誘致活動及び既存企業との取引等に関する協力
- 国内外の企業からの立地相談の対応

構成

- 富良野市
- 富良野商工会議所
- 山部商工会
- ふらの農業協同組合
- 金融機関(旭川信用金庫・北洋銀行・北海道銀行・空知商工信用組合の富良野支店)(日本政策金融公庫旭川支店)

富良野市企業誘致推進連絡会議の取り組み

企業誘致実務者研修会(H30.2.21)



【講演】

テーマ:「企業立地動向、企業誘致の手法及び
本市への企業立地の可能性」

講師:(一財)日本立地センター 藤田 成裕 氏

【情報提供】

- 北海道経済部国際経済室
- 日本貿易振興機構 北海道貿易情報センター
- 北海道上川総合振興局商工労働観光課

市有地等の現地視察(H30.5.29)



- 麓 郷 【旧麓郷中学校(市有地)】
- 西達布 【旧樹海東小学校(市有地)】
- 山部西町【旧寿光園跡地(市有地)】
- 山部北町【山本木材跡地(民有地)】
- 山部北町【公営住宅跡地(市有地)】
- 北の峰町【公営住宅跡地(市有地)】
- 北の峰町【空き地(市有地)】

企業誘致に向けたトップセールス

食品企業立地セミナー



首都圏の食品企業に対して、本市の農作物の魅力をPRし、ブースに訪れた企業担当者へふらのワインやふらのチーズを提供し、名刺交換や懇談を行う能登市長（H30. 1. 23）。

北海道創生プラットフォーム形成事業



富良野市の地域資源やブランド力を活かしたビジネス進出に関心のある首都圏の企業に対して、ICT等の先端技術に取り組む研究施設などの誘致に向けて話す北市長（H30. 8. 30）。

ベトナムでのプロモーション活動

事業の目的

富良野・美瑛広域観光推進協議会において、観光客誘致を推進するために関係自治体6市町村のトップセールスによるプロモーション活動を行い、富良野・美瑛の認知度向上、旅行意欲の醸成、旅行商品造成の拡大を図ることを目的に、平成29年11月6日から11日までベトナムのホーチミン市、ハノイ市を訪問した。

ホーチミンでのセミナー



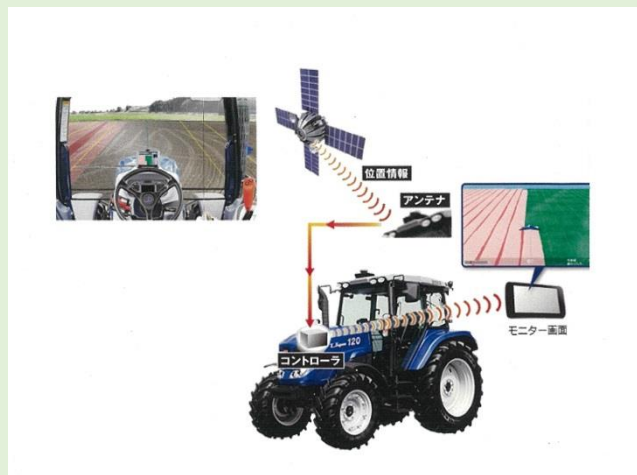
ベトナム航空表敬訪問



労働力不足改善に向けたスマート農業の促進

市では、農業経営者の高齢化や農業従事者の減少による労働力不足の改善に向けて、農作業、管理作業へのICT技術導入を図り、省力的・効率的農業への転換をめざす農業者への支援を平成29年度から行ないました。

- 対象者～認定農業者および認定就農者
- 助成内容～①GPSガイダンスシステムおよび自動操舵システム導入に係る経費（実績件数8件）
②栽培用ハウスの自動換気設備導入に係る経費（実績件数8件）



GPSガイダンスシステム



ハウス自動換気設備

子育てママ×子育て応援農家

子どもを預けている間の少しの時間でも働きたい
子育てママの「働きたい」を応援します

子育て × 農業

子育てママ × 子育て応援農家を つなぎます

例えば、子どもを預けている
平日の9時～12時勤務 etc

▼農業でもこんな多様な働き方ができます

短時間
勤務

土日
休み

急な
キャンセル

時給
850円～



▼子育てママ×子育て応援農家をつなげる仕組み

まずは
登録

登録

※インターンシップや
登録農家などの情報をお知らせします

インターンシップ
(就労体験)

農家で
働く

もしくは直接連絡

市では、子どもを預けている時間に少しでも働きたい子育てママと子育てママに働いてほしい農家さんをつなげる取り組みを行っています。



子育てママ登録者: 41名 (うち就労者29名)
子育て応援登録農家: モロシ 8件、ミニトマト 5件

まちなか居住促進事業

1. 事業の目的

市では、中心市街地の居住人口の増加を図るために、まちなかにある民間賃貸住宅への入居を希望する市民に対し、引越し費用の一部を助成する「まちなか居住促進事業」をつくりました。

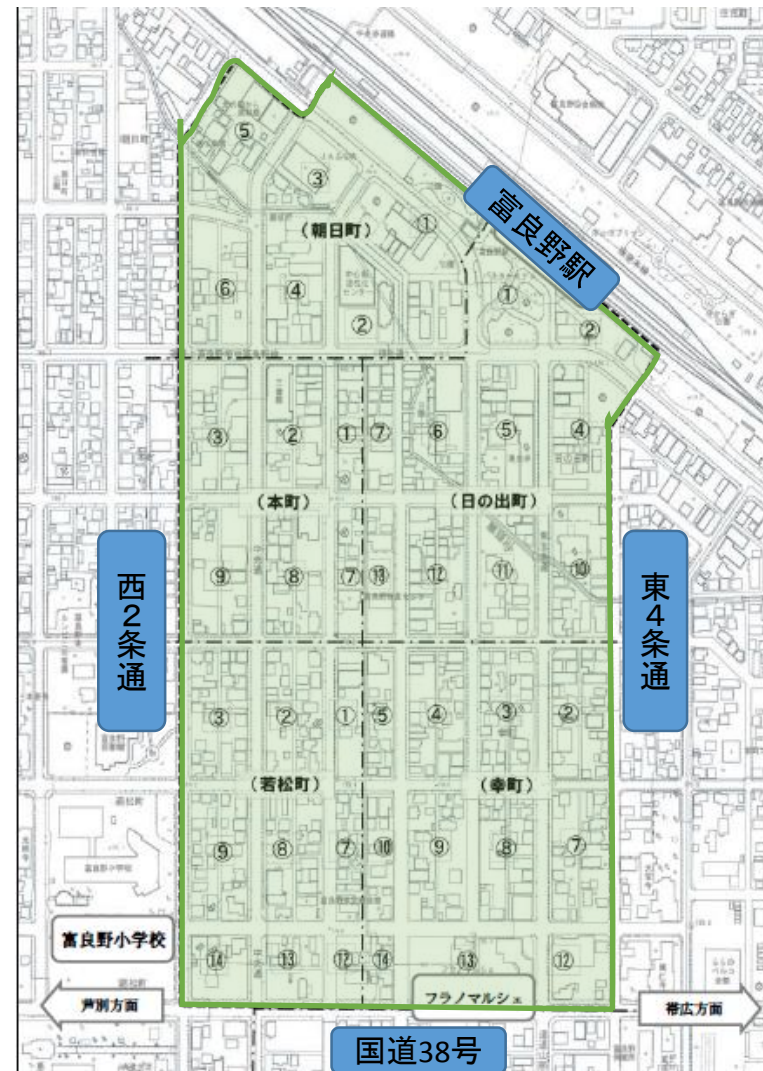
2. 助成金額

助成金額は、次に掲げる事項の合計額とし、上限を15万円とします。

- (1) 敷金
- (2) 月額賃料1か月分
- (3) 仲介手数料(税込)

3. 平成29年度利用実績

3件



市内のホテル建設等



(假称) 富良野北の峰ホテル



(假称) 富良野ホテル1



ラビスタ富良野ヒルズ



下御料観光リゾート

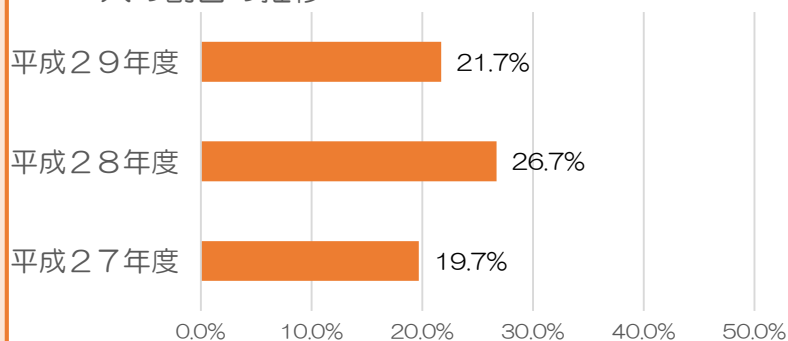


9月18日に公表された平成30年度道内基準地価では、富良野市北の峰町11-21の価格が**対前年比8.8%増**の19,800円／m²と発表された。

特定不妊治療費助成事業の創設

若年層のアンケート調査結果

子どもを産まない、産めない理由として「ほしいけれどできないから」と回答した人の割合の推移



不妊治療には、多額の費用がかかります。これまで、富良野市内の不妊に悩むご夫婦に対する不妊治療費の助成は、北海道が実施してきましたが、平成28年度からは、市も助成を行うことにより、不妊治療に係る経済的な負担の軽減を図ります。

事業の内容

- 対象となる治療は、体外受精及び顕微鏡受精。
- 対象者は、北海道の特定不妊治療費助成事業の助成決定を受けた夫婦。(ただし、妻の年齢は43歳まで)
- 助成額は、特定不妊治療に要した経費から、北海道の助成額を差し引いた額で、助成限度額は1回15万円。
- 助成回数は40歳未満が通算6回まで、40歳以上の場合は、通算3回まで

	H28年度	H29年度
助成額	174万円	122万円
人数/回数	9名延17回	6名延10回

乳幼児医療給付事業

平成28年3月診察分まで

3歳～小学校入学前までの
住民税課税世帯(所得制限あり)

医療費1割負担
(月額上限あり)

平成28年4月診察分から

3歳～小学校入学前までの
住民税課税世帯(所得制限あり)

医療費無料

平成28年8月診察分から

小学校入学前まで
(所得制限なし)

医療費無料

事業の内容

乳幼児及び小学校終了前児童の医療費の一部助成(小学生は入院のみ)

小学校就学前:医療費負担無

小学生:非課税世帯負担無

課税世帯(1割負担/月額上限有)

※所得制限有

	H28年度	H29年度
乳幼児医療費	5,059万円	4,899万円
対象人員	1,105人	998人
給付件数	19,572件	18,407件

子育て世帯の経済的負担の軽減

満1歳になるまでの経済的負担軽減

富良野市の出生数が減少し、少子化が進行するなか、安心して子どもを産み育てることのできる環境を整え子育て世帯の負担軽減のため、紙おむつの購入費の助成やおむつ用ごみ袋の給付を平成28年度から実施しました。

おむつ券 交付事業	H28年度	H29年度
申請	274件	270件
使用	5,041枚	4,589枚
事業費	518万円	478万円

おむつ用 ごみ袋給付 事業	H28年度	H29年度
申請	274件	270件
購入	8,860枚	12,090枚
事業費	16万円	24万円

多子世帯への経済的負担の軽減

第3子以降多子世帯出産祝金給付事業

- 第3子以降の子どもの出産に際し、出産祝金を給付。
- 対象は、市内に住所を有し、現に22歳以下の2人以上の子を養育し、第3子以降の子どもを出産した世帯の保護者。
- 祝金額は、10万円を給付し、うち5万円分は、ふらの市内共通商品券を給付。

	H28年度	H29年度
人数	21人	24人
給付額	210万円	240万円

第3子以降多子世帯就学助成事業

- 第3子以降の子どもが、市内小学校の第1学年に就学する際、就学助成金として、対象児童1人につき、5万円を支給。

	H28年度	H29年度
人数	23人	25人
助成額	115万円	125万円

ファミリーサポートセンター事業

相互援助活動

子育ての援助を受けたい人と子育ての援助を行いたい人が会員組織をつくり、安心して子育てができる環境づくりのために、ファミリーサポートセンター事業に取り組んでいます。
(会員数154人)

相互援助活動の内容(H29利用実績215件)

- ① 保育施設の保育開始前までや保育終了後の子ども預かり
- ② 保育施設までの送迎
- ③ 学童保育センター終了後の子ども預かり
- ④ 放課後の子ども預かり
- ⑤ 冠婚葬祭や学校行事の際の子ども預かり
- ⑥ 買い物等外出の際の子ども預かり

事務所の移転

本年4月から、「富良野市ファミリーサポートセンター」が株式会社ヤクルト北北海道様のご厚意により、保健センターから事業所内保育所が設置されていたヤクルト富良野2階に移転しました。



住所: 日の出町9番2号
(ヤクルト富良野2階)

森林学習プログラム推進事業

東京大学北海道演習林との地域交流協定の締結

市では、東京大学北海道演習林と地域交流協定を結び、恵まれた森林環境を教育目的で有効活用し、市内小中学生を対象とした森林環境教育を進めることで、森林のはたらきや生き物と環境の関わりなどに理解を深め、郷土愛を育むための「森林学習プログラム」の開発を進めます。



平成29年度の実施内容【315万円】

- 森林学習プログラムの改善
- 森林ガイドの発掘と育成
- 森林ガイド認定制度の策定

平成29年度の実績

- 森林学習サポーター認定制度の検討。
- 森林ガイド養成研修会を4回開催。
- 森林学習プログラムを8校173人が参加



ふらのまちづくり未来ラボ推進事業

富良野を愛し、「ふるさと富良野」に心が向く取組み

子どもたちには、小さな頃から地域社会との関わりを深め、生まれ育った地域への誇りと自らがこの地域で自立していく気概を持つための「学びの場」が重要です。本事業は、子どもたちが地域の各分野で活躍している大人たちとワークショップ学習を行い、富良野の魅力の発見と、自らが参加できる地域社会づくりの実践を通して、富良野を愛し、将来、「ふるさと富良野」に心が向く郷土愛を育むことを目的としています。

平成29年度の実施内容【172万円】

- 「サウンズ&ムービーズ」ワークショップ⇒10回開催
～ふらのを伝える～
- 「空から鳥になって」ワークショップ⇒36回開催
～ふらのを知ろう～
- 「はたらく人になって」ワークショップ⇒27回開催
～ICTエンジニア～
- 「見て、作って、食べて」ワークショップ⇒4回開催
～美味しいを探そう～

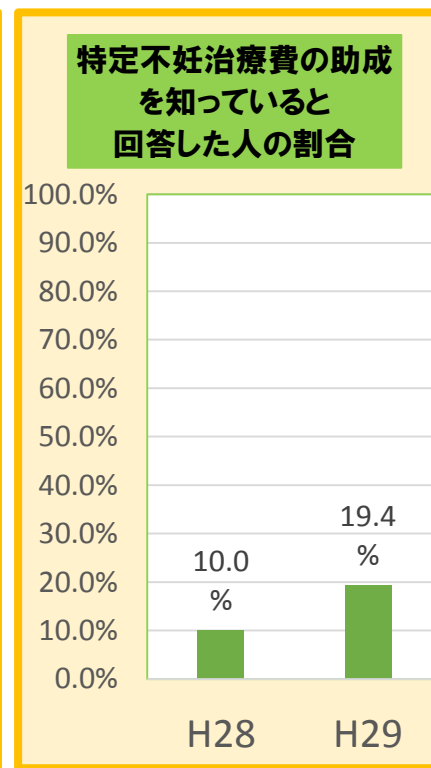
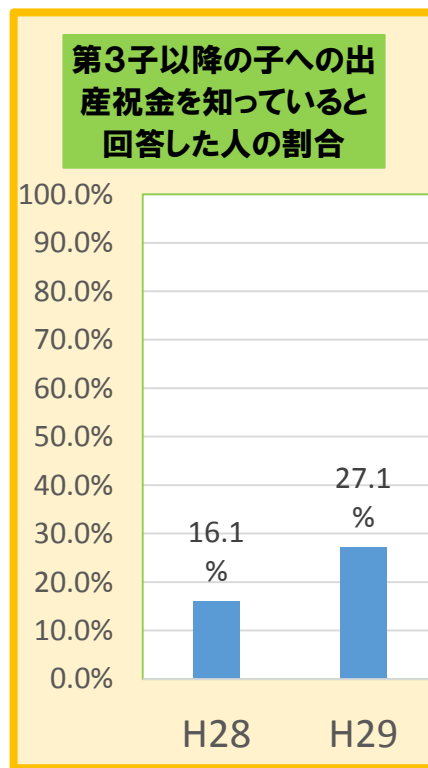
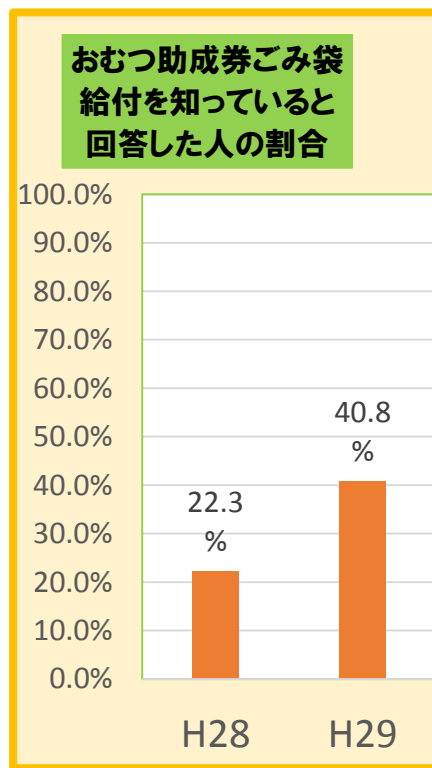
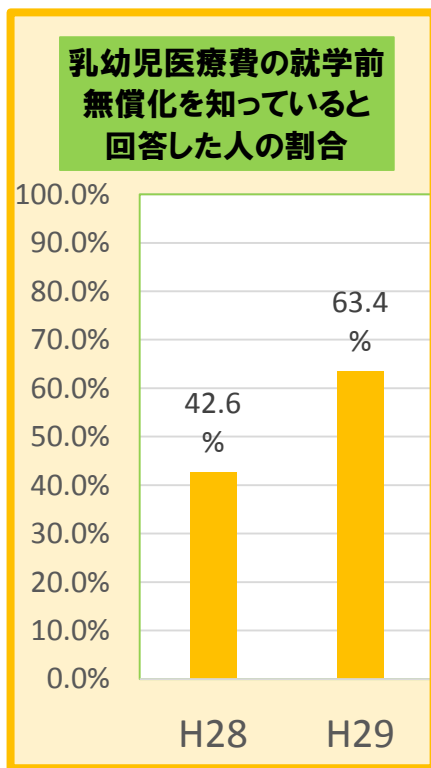
平成29年度の実績

- 参加児童数延711名



少子化対策として新たに取り組んだ事業の認知度

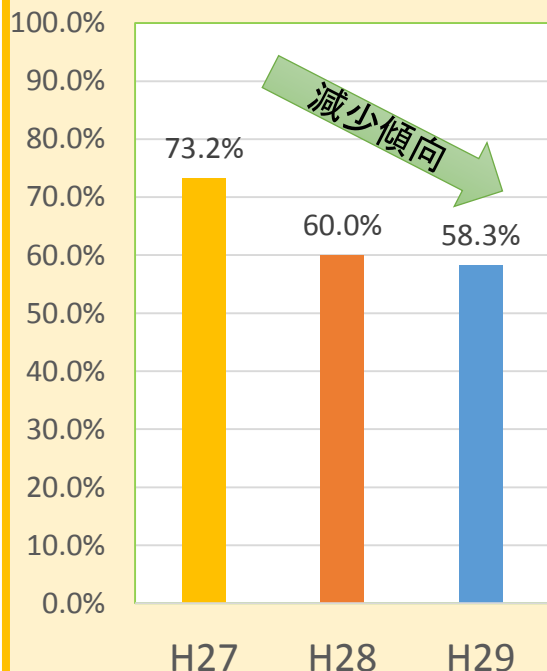
	18歳から39歳までのアンケート対象者	送付総数	回収率	調査期間
平成28年度	2,661名	1,000通	32.3%	平成29年3月6日から3月21日
平成29年度	2,539名	1,000通	30.4%	平成30年3月1日から3月16日



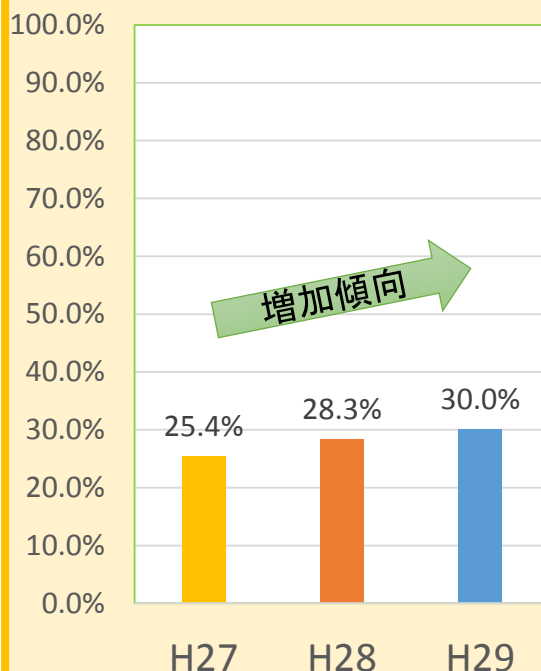
予定の子ども数が理想の子ども数より少ない理由

若年層の市民アンケート調査より

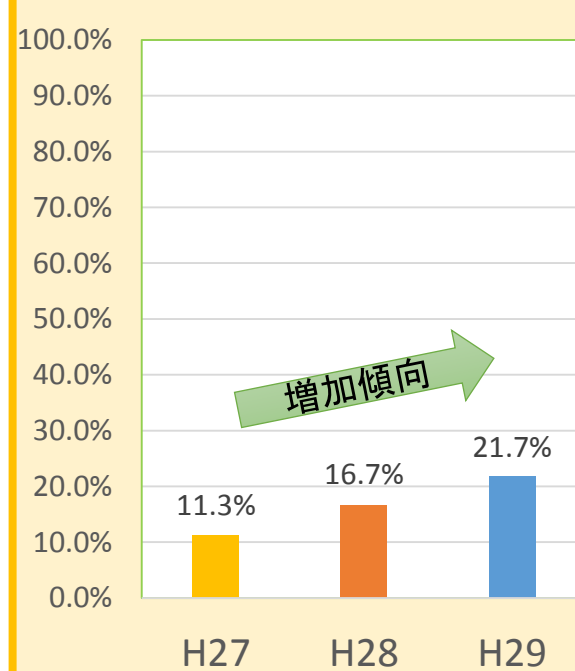
「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した人の割合



「高齢で産むのは難しいから」と回答した人の割合



「育児が心理的・肉体的に負担だから」と回答した人の割合



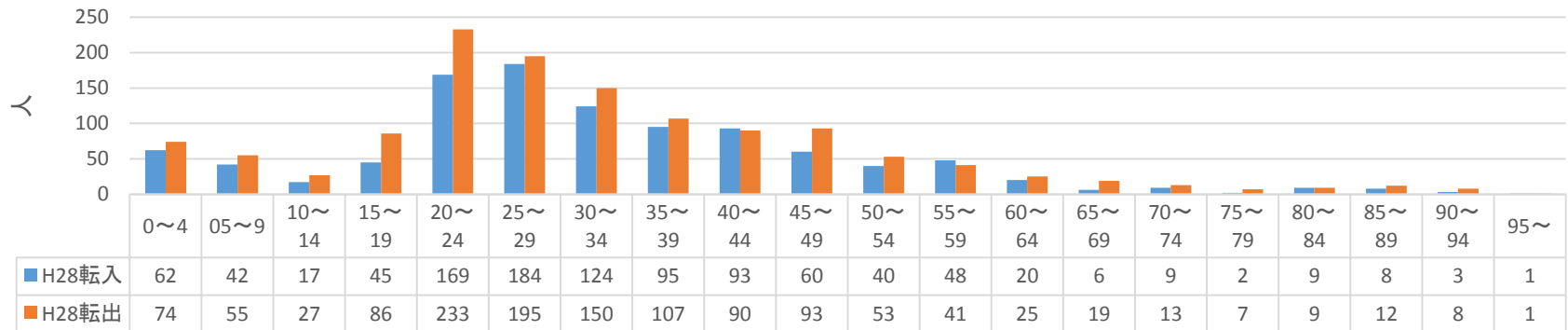
若年層の市民アンケート調査による「予定の子ども数が理想とする子ども数より少ない理由」としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した人の割合は、年々減少しているが、「高齢で産むのは難しいから」と「育児が心理的・肉体的に負担だから」と回答した人の割合は増加傾向にあります。

若年層のアンケート調査自由記載の主な内容

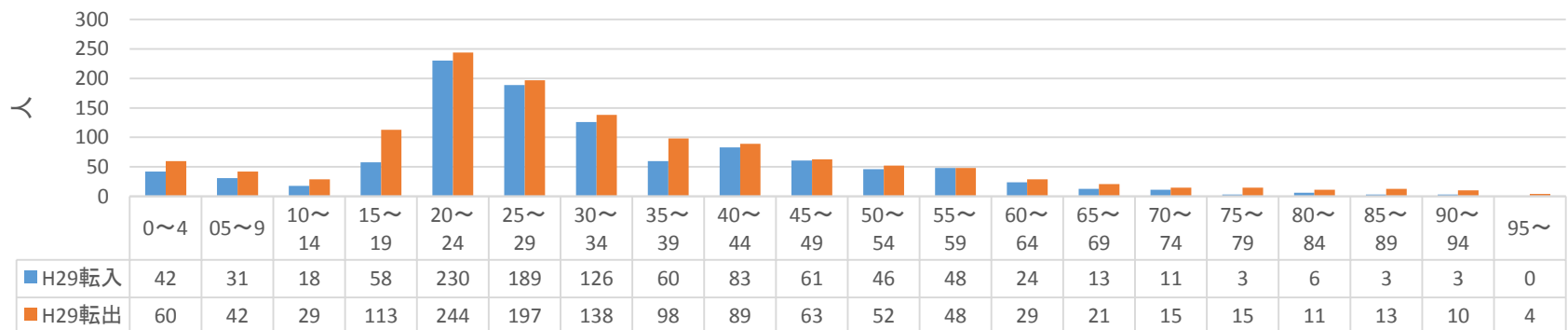
- 子育てがこんなにお金がかかるのかと悩みます。予防接種や病院受診、乳幼児医療費の無償化幅が広がってきているのは助かります。あとは、学校、幼稚園に関する資金・・・預ける所も高額。昔のように親が同居してという暮らしでないのです。その分かかるのか。子育てに心身ともに疲れてしまうこともあります。お金のかからないサポートなど理想です。富良野から出て行く人は、遊ぶ所が少ない、仕事は人がいなくキツイ、などと札幌へ出て行く人が多いです。(35~39歳女性)
- 若い世代が住みたいと思うような人々のあたたかさが、この富良野市にはあると思います。ただ土地の価格が高かったり、市内の賃貸の家賃が高かったりと所得に比べて家賃補助のある企業が少なかったりするのので、住宅を維持していくのが大変です。誰も住んでいない古い民家を、安く借りたい人にあっせんしたりすることに力を入れていただけるとありがたいです。富良野が大好きなので、このまちにこれからも住みたいので、雇用や子育てに関して安心していれる環境を作ってほしいです。(30~34歳女性)

平成28年度と平成29年度の5歳階級別転出入数

平成28年度年齢別転出入数

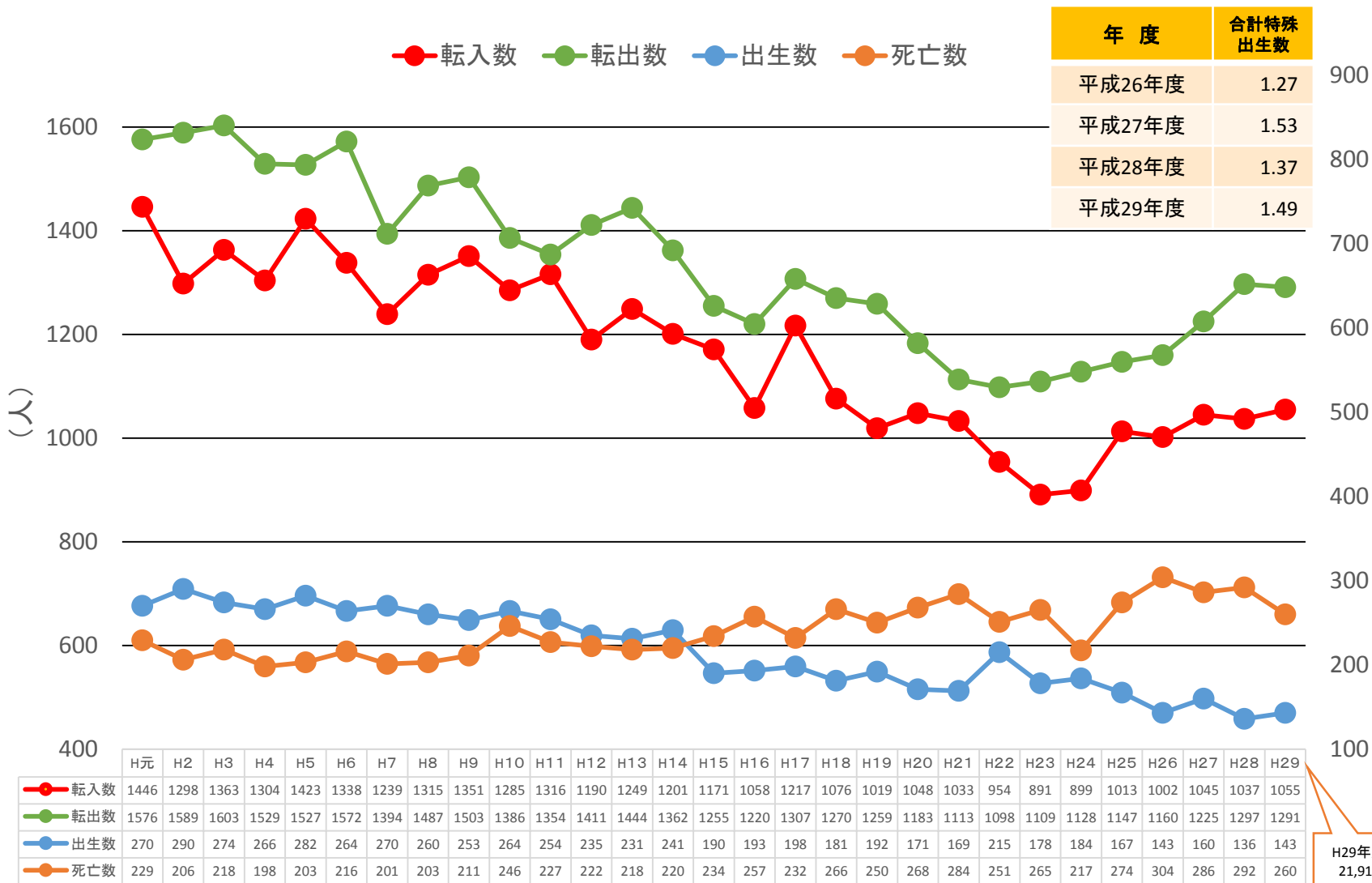


平成29年度年齢別転出入数

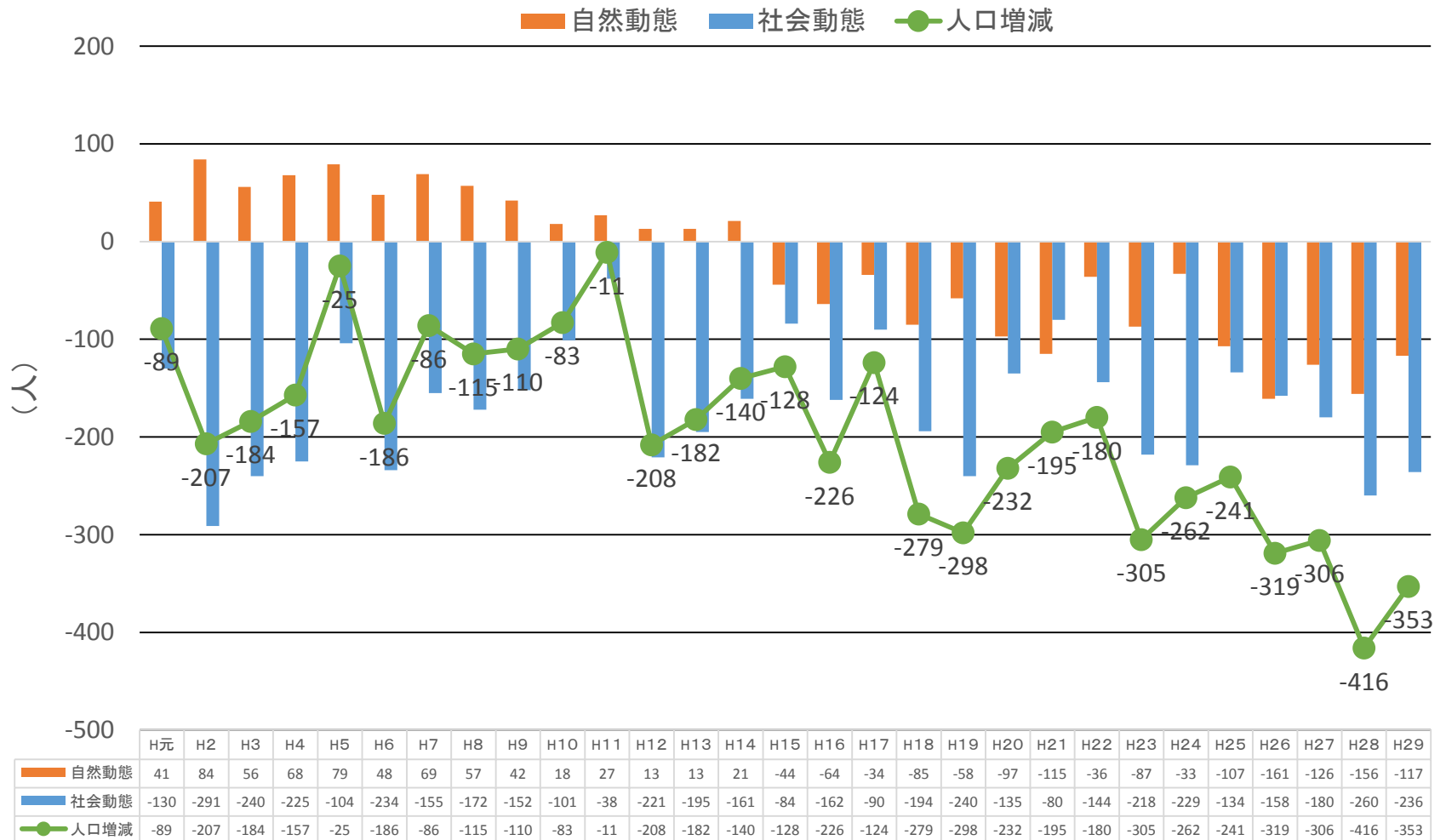


転入・転出数は平成28年度、平成29年度ともに20～24歳が最も多い。
 20～25歳の転入数は平成28年度は169人に対し、平成29年度は230人と61人多い。

富良野市の転入・転出・出生・死亡数の推移



富良野市の自然動態と社会動態の推移



自然動態(出生数-死亡数) 社会動態(転入数-転出数) 人口増減(自然動態+社会動態)